

包装材における環境配慮

包装専門委員会を中心として、
「環境包装」の実現に取り組んでいます。

包装材に関する 環境負荷の低減

カシオでは、「環境包装」への取り組みとして、商品や物流方式に応じた「最適な輸送包装の荷姿」を追求。包装自体の構造・形態の開発や、製品強度の把握による包装の小型化・軽量化などを通じて、包装材使用量・廃棄量の削減を進めています。また、包装資材における再生資源の利用とリサイクル化を積極的に進めています。

包装専門委員会

カシオの環境包装に関する活動は、カシオ環境保全委員会で組織された「包装専門委員会」を中心に運営しています。同委員会では、環境行動目標を設定するとともに、環境関連事項に対する対応・運用を確認しています。

包装専門委員会 活動方針

主旨

持続可能な社会に向けた環境保全活動を行う上で、重要な位置を占めるのが、包装廃棄物の減量化であります。包装の廃棄量を減らすか、自然に優しい包装を作り出すことが包装の重要な考え方であり、メーカーが積極的に取り組むべき責任であると考えます。

方針

1. 環境適合包装に向けた行動目標の策定と運用・評価
2. 環境対応包装の開発と技術の共有化・実用化
3. 各国環境包装法規制への対応
4. カシオ包装材総使用量の掌握
5. 包装品質ガイドラインの策定

運用

包装専門委員会の開催は、四半期毎

行動内容

包装材の削減：減量化、小型化

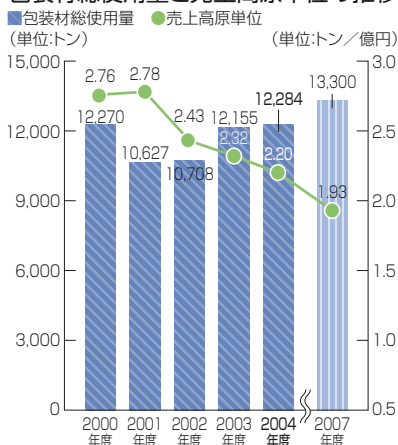
材料の安全性：有害化学物質含有規制の遵守

リサイクル性：単一素材の使用、廃棄の容易性、包装表示規定の遵守

省資源・再生資源の利用：再生紙、再生樹脂、非木材紙の採用

2000年度から、包装材使用量のデータベース化を図り、2003年度までの目標を設定し、その削減に努めてきました。2004年度には、事業拡大にともない、新たに2007年度末までの包装材総使用量の削減目標を売上高原単位で設定し、2007年度末までに2000年度比で30%以上削減を目標に、活動を展開しています。

包装材総使用量と売上高原単位の推移



※包装材総使用量の対象は、紙系・段ボール、発泡スチロールおよびプラスチック系素材を合計したものです。

包装材の削減に向けた取り組み

2004年度は、製品および包装品の耐衝撃強度を見極めることで、包装箱の小型化や使用材料の減量化を追求しました。また、包装箱の縮小化を図り包装比率（＝箱容積／製品体積）の向上にも取り組みました。その他にも、包装材の見直しや、効率的な材料取り寸法の検討など、包装材の削減に取り組んだ結果、2004年度の包装材総使用量は売上高原単位で2.20となり、前年比5%減となりました。

今後も上記の活動を継続するとともに、以下のようなテーマにも取り組んでいきます。

- 包装形態の多様化から樹脂素材の使用量が増加している販促用ディスプレイ

レイ包装において、再生樹脂材料の使用比率をさらに向上させます。

- 資源循環型の物流をめざし、通い箱を使った「リターナブル包装」を積極的に推進します。
- 物流工程の効率化による輸送手段の一元化や荷扱いの減少を踏まえて、包装品質評価基準（落下・振動 規格）の見直しを行います。
- 一般消費者への配慮として、箱の開け易さ、製品の取り出し易さ、廃棄処理のし易さといった「ユニバーサル包装」を追求します。
- 輸送外装箱の小型化による輸送コンテナへの積載効率向上を通じて、コンテナ本数や輸送回数の削減によるCO₂排出量の削減を図ります。
- 発泡スチロールの使用量削減に向けて、今後も継続的に取り組みます。

取り組み事例

発泡スチロールの削減・減量化

発泡スチロールの使用用途は、大型商品の包装が大半を占めています。2004年度は、楽器包装で使用していた発泡スチロールの緩衝材部分を紙系素材に切り替えました。今後はキーボード（標準鍵）を中心に、順次紙系素材であるパルプモールドに切り替えて行く計画です。

発泡スチロールの使用量と売上高原単位の推移

